

児童生徒たちが活躍



10/15 市役所

右から監督の野呂尚司さん、威力あるスマッシュを得意とする中村さん、ガッツあるプレーが持ち味の太田さん

森田中学校(竹内明人校長)吹奏楽部が「第27回日本管楽合奏コンテスト予選審査会」(日本音楽教育文化振興会主催)中学校S部門(3人~15人編成)で、初出場で最優秀賞に輝き、全国大会の切符を手に入れました。

この日は吹奏楽部の10人が市役所を訪れ、その喜びと出場する全国大会への抱負を倉光市長に話しました。

倉光市長は「皆さんの活躍に元気づけられました。全国大会はコロナ禍のため動画審査になるようですが、いい結果を期待しています」と激励しました。

部長の山崎惺天さん(3年)は「練習をしていくうちに皆の仲が深まり、音色もどんどん良くなった。全国大会出場が決まったときは驚きだった。うれしい気持ちでいっぱい」と笑顔で話してくれました。

8月1日、県武道館において、第22回県小学生バドミントン選手権大会兼第27回東北小学生バドミントン大会県予選会が開催されました。

女子シングルス6年生以下に出場した瑞穂小6年太田愛琉さんが準決勝進出、女子ダブルス5年生以下に出場した柏小5年中村瑳里さんが準々決勝進出を果たし、見事東北大会の切符を手に入れました。

この日、2人は市役所を訪れ、太田さんは「東北大会では悔いの無いように最後まで諦めないで戦いたい」、中村さんは「練習したことを全て出し切って悔いの無い東北大会にしたい」と抱負を話しました。バドミントンが大好きだと話す倉光市長は「競い合うライバルを破って決めた東北大会出場。良い成績を目指して精一杯がんばってきてください」と2人を激励しました。



10/26 市役所

笑顔で全国大会出場を報告する吹奏楽部の皆さん

皆さまの善意に感謝します



第一生命保険青森支社(加藤秀俊支社長)からアルコール消毒液(1ℓ×20本)が寄贈されました。加藤支社長は「コロナ禍が続いているので、市のコロナ対策に役立ててほしい」と話しました。

9/21



10/6

県西部郵便局長会つがる部会(部会長・宮下和人中里郵便局長)からタブレット端末3台が寄贈されました。宮下部会長は「コロナ禍で行動制限されるなか、聴覚障害者が遠隔手話を行う際になどに活用してほしい」と話しました。



10/11

国際ロータリー第2830地区(成田秀治ガバナー)から縄文遺跡案内看板(10基程度、約50万円相当)が寄贈されました。成田ガバナーは「縄文遺跡を訪れる観光客が増えている。多くの方に情報を分かりやすく伝えることができれば」と話しました。



10/14

つがるロータリークラブ(奈良昭仁会長)から市立図書館に図書10万円分が寄贈されました。奈良会長は「コロナ禍で外出制限される中、多くの市民が本に親しんで教養を高めてほしい」と話しました。

防災習字作品 今年も力作が集まる

市消防本部では、秋の火災予防運動（10月18日～24日）の一環として、防災に関する習字作品を募集。市内7つの小学校から183点の作品が寄せられ、その中から優秀作品30点が選ばれました。応募された作品は全て、秋の火災予防運動期間中、イオンモールつがる柏で展示し、火災予防の啓発を行いました。

	1年「みず」		2年「ほのお」		
金賞	山田 いち花	柏	一戸 実衣菜	向陽	
銀賞	松崎 晴菜	稲垣	平川 愛佑菜	柏	
	加藤 咲莉夏	稲垣	小枝 鈴実	車力	
銅賞	平田 陵真	向陽	藤田 愛華蝶	森田	
	樋口 愛莉奈	穂波	竹鼻 莞央	向陽	
	3年「はしご車」		4年「火の用心」		
金賞	加藤 葵	稲垣	石澤 七羽	車力	
銀賞	藤本 桜空	向陽	丹代 ゆい	柏	
	木津谷 潤葉	稲垣	加藤 優莉愛	稲垣	
銅賞	清藤 芽依	向陽	會津 妃南乃	車力	
	神 侑之介	向陽	秋元 凜	稲垣	
	5年「自然水利」		6年「初期消火」		
金賞	佐々木 心乃花	向陽	柴谷 有美	柏	
銀賞	小田桐 美桜	稲垣	粕谷 柚	向陽	
	尾野 瑠依菜	車力	村田 結衣	車力	
銅賞	秋田谷 帆香	向陽	加藤 吏莉春	稲垣	
	米谷 來斗	森田	元山 七斗	瑞穂	



歩いて健康づくり

この日、市スポーツ推進委員協議会(工藤敦子会長)は、県ノルディックウォーク連盟公認指導員小田桐匡孝さんを講師に迎え、ノルディックウォーク教室を開催しました。約30人の市民が参加し、基本動作のアドバイスを受け、松の館の周辺2.4kmを歩きました。

教室を終え、工藤会長は「ポールがあると普段歩かない人でも歩きやすい。仲間と一緒に楽しんでやるのが一番」と笑顔で話しました。講師の小田桐さんは「ポールに圧力が分散されるので、通常のウォーキングよりも体への負担が少ない。自分のペースで、どこでもできる運動なので健康づくりにおすすめ」とその効果を教えてくださいました。



10/24 松の館周辺
青空のもと、颯爽と歩く参加者

10/27 ウインドファームつがる (木造菰槌地区)



風力発電施設の内部を見学する生徒たち

再生可能エネルギーについて学ぶ

本市で風力発電施設「ウインドファームつがる」を運営するグリーンパワーインベストメント(GPI)の協力のもと、木造中学校(山谷光寛校長)1年生95人が再生可能エネルギーについて学びました。

はじめに、GPIの社員が日本のエネルギー需給の状況や風力発電の仕組みなどを解説。その後、生徒たちは風力発電施設に移動し、タワー内部を見学。間近で見る風力発電の大きさに驚きの様子でした。

学校に戻ってから、意見交換が行われ、生徒たちは「どうして風車は白色なのか?」「発電量は?」などと質問。GPIの社員たちは「実は白色ではありません。白だと目立ちすぎるので、雲に近い色にして景観と調和を図っています」「38基ある風力発電で約9万世帯分、県の6分の1の世帯を賄える量を発電できます」と答え、生徒たちは再生可能エネルギーへの理解を深めていました。